

7. 中国関係

1. 満鉄（南満洲鉄道株式会社）

満鉄史料叢書

監修（財）満鉄会
解題 野間 清

満鉄の経営とその活動を綴る本叢書は、わが国の資本主義的發展、特に植民地経営の経過と経験、日中両国民族の関係を示す歴史的文献資料である。このたび財団法人「満鉄会」が満鉄の経営や活動の基本文献・資料を永く後代に遺すべく、『満鉄史料叢書』として系統的に監修復刻することになり小舎が協力して刊行する。 残僅少

満鉄撫順炭礦 編(昭和14年)

① 秘 炭 礦 読 本

ISBN 978-4-8447-5351-3
A5判・730頁

本体価18,000円

満鉄が経営した撫順炭礦（採炭所・頁岩製油工場・石炭液化工場・化学工業所・火薬製作所・製鉄試験工場等の総合的経営組織）の沿革と組織、経営の現態、各部門の技術的現況等についての専門的解説書。当時の経営と技術の現況を網羅的に明確に示す。

（'86・1 初版）
（'89・3 2版）

② 満鉄新入社員 研修教材集

6ヶ月とされていた。この期間は、配属された箇所の実務にはつまず、1週間5日ないし6日、毎日5時間ないし6時間、専ら集団的研修を受けることになっていた。

昭和6年度、研修期間は4ヶ月間に改められた。そして中国語の講習は、『北京官話指南、急就篇』を教本にして毎週5日ないし6日、1日4時間ないし6時間おこなわれた。満蒙事情及び会社事情の講習は、『満鉄社員須知』を参考文献として、当時、満洲青年連盟員であった人事課員が主としてこれにあたっていた。

昭和9年以後、つまり満洲国が一定の成長をとげた後、この研修制度は改められ、「採用の当初約1週間に亘り、各箇所の専門家をして各種業務の概要を講演せしむるに止め」、中国語の講習もそれぞれの箇所適宜におこなうことになった。『新入社員執務要覧』は、制度改革後におこなわれた「各箇所の専門家」による講演のテキストである。この講演では説明の重点はむしろ、満鉄の組織機構の現況、各部箇所の業務内容の現態等におかれ、満鉄の国策的性質についての強調は次第に弱まっている。同時に、講演は、満鉄会社の沿革、組織から鉄道をはじめ各部箇所の業務概要、満洲の衛生事情や衛生心得、そして満洲の政治、経済事情にまで及ぶ広範な課題についてなされているが、その講演趣旨は、『満鉄社員須知』の場合のように必ずしも統一・貫していない。なかでも、満洲の政治、経済事情についての講演にその変化が著しい。昭和9年版では、満洲国政府の経済政策の記述に終始していることさえ言うことができるのにくらべ、昭和13年版では、新入一般社員ははたして消化し得たであろうかと疑われるような左翼的な言葉で、満洲経済性質の「理論的分析」がなされるに至っているのが特徴的である。

南満洲鉄道株式会社(昭和5年)

(1) 満鉄社員須知

ISBN 978-4-8447-5330-8

A5判・124頁

本体価4,500円

('86・11刊)

満鉄総務部人事課 編

新入社員執務要覧

- (2) 昭和9年度 ISBN 978-4-8447-5331-5
A5判・223頁 本体価6,000円
- (3) 昭和10年度 ISBN 978-4-8447-5332-2
A5判・272頁 本体価7,000円
- (4) 昭和11年度 ISBN 978-4-8447-5333-9
A5判・336頁 本体価10,000円
- (5) 昭和13年度 ISBN 978-4-8447-5334-6
A5判・436頁 本体価15,000円

満鉄地方部庶務課 編(昭和10年)

(6) 新入社員須知

ISBN 978-4-8447-5335-3

A5判・230頁

本体価5,000円

('86・11 刊)

〔品切〕満鉄社員消費組合 編

③ 満鉄社員消費組合10年史

ISBN 978-4-8447-5337-7

A5判・176頁

本体価6,500円

('86・11 刊)

満鉄社員の生活物質保証組織が創始され、それが消費組合組織として基礎を固めた創業期10年の歴史を綴る。満洲という植民地での植民者生活に果した役割、植民地経済の中で成長して行った経緯と問題点等を伝える史料。

〔品切〕南満洲鉄道株式会社

④ 〔極秘〕帝国議会説明資料 全16巻・総17冊

ISBN 978-4-8447-5336-0

A5判・各冊平均400頁

本体価250,000円

「満鉄」は、形のうえでは鉄道経営の民間営利会社であったように見える。しかし、その実体は、資本金の半額を日本政府が出資し、「勅令」という特別法令によって設立され、その総裁をはじめ全重役は政府が任命していた、植民地経営機能を政府に代って営んでいた準政府機関であった。したがって、その業務の現況について、政府は「帝国議会」と呼ばれていた当時のわが国の国会での質疑に応答説明しなければならなかった。この「説明資料」は、満鉄が日本政府

のために作成していたその説明資料である。原則として毎年12月に、通常「議会」開催のたびに作成されたものと思われる。

ここで説明されている事項は、満鉄の組織や業務の基本的な事項であって、当該年度の満鉄の活動の全貌ではない。また、説明も「簡潔」であって詳細というほどのものではない。しかし、その採りあげている事項と説明によって、その年度の満鉄の活動の基本的な態様の概要を知ることができる。また、毎年度のそれらと比較検討することによって、昭和期における満鉄の組織機構や中心的活動の発展変化の歴史をあとづけることができる。つまり、昭和期のほとんど全期をカバーしているこれらの「説明資料」によってわれわれは、満鉄の昭和期における活動の正史を辿ることができるであろう。

('86・8刊)

収録内容

巻数	年・月	帝国議会年度	巻数	年・月	帝国議会年度
1	大正13・12	50	9	昭和10・12	68
2	昭和3・12	56	10	〃 11・12	70
3-1	〃 4・12	57	11	〃 13・12	74
3-2	(別冊)		12	〃 14・12	75
4	〃 5・12	59	13	〃 15・12	76
5	〃 7・5	62	14	〃 16・12	79
6	〃 7・12	64	15	〃 17・12	81
7	〃 8・12	65	16	〃 18・12	84
8	〃 9・12	67	合計 16巻・17冊		

⑤ 満洲事変直前期満洲に於ける労働争議録集

ISBN 978-4-8447-5338-4

A5判・500頁

本体価22,000円

大正期から昭和初期にかけての満洲事変直前の時期に、南満地域を席捲した労働運動と労働争議について、満鉄の人事（労務）担当個所が作成した記録を編集。これらの「記録」を通じて、南満地域の労働運動、さらには中国全土を風靡した労働運動の性質や発展の趨勢等についての満鉄の人事（労務）担当個所の認識と対応の姿勢を知ることができる。（87・10刊）

⑥ 満鉄各箇所使役華工調査報告

ISBN 978-4-8447-5339-1

A5判・470頁

本体価20,000円

満鉄は大部分の業務を社外請負者に依存していたので、中国人労務者の実態を正確に把握していなかった。

1927年7月、満鉄社長に就任した山本条太郎は「社業実務の合理化経済化」を提唱し、調査課とは別に、経済調査委員会を設置した。委員会は、1928年1月から約4ヶ月にわたって、中国人労務者が使役されている全現場作業個所について聞き取り調査を実施した。本書は、その調査報告書である。

これは、満洲事変直前期の満鉄の現場で働いていた「社員外」中国人労務者の労働と生活の実態を描いた百科全書的記録である。（87・10刊）

⑦ 満鉄鉄道営業貨物積卸に関する華工制度の沿革（上・下）全2巻

ISBN 978-4-8447-5340-7

A5判・計800頁

本体価30,000円

大正末期から昭和初期にかけ経済恐慌のあおりを受け、満鉄の経営も悪化の度を急速に深めていた。この貨物の鉄道への積み卸し作業は、満鉄自身の備員ではなく、中国人労働者（苦力）に依存し、会社としては、従来、この制度についての格別な検討も対策も講じていなかった。

しかし、この時期中国全土に沸き上った中国民衆の反帝国主義反封建の愛国運動は東北地区へも浸透し、長春駅や奉天（瀋陽）駅でストライキが勃発し貨物輸送が脅かされるに至って、満鉄もこの制度への吟味と対応をせまられ、1929年この制度の全容の調査を創業以来はじめておこなった。本書は、その調査結果である。（87・11刊）

⑧ 日支紛争に関する国際聯盟調査団と満鉄

ISBN 978-4-8447-5341-4

A5判・700頁

本体価28,000円

「満洲事変」についての「リットン報告書」が国際的論議や対日態度決定の基礎的な資料になったことは、ひろく知られている。満鉄は当時、実質的にはわが国の外務省に代って、この調査団の中国東北地区での視察の東道役をつとめ、一行の東北地区における行動の詳細を会社の公式的な記録として残している。それは報告書が作成された背後の状況を示す貴重な資料である。同時に、当時の満鉄の性質や役割を示す重要資料でもあり、また国際的孤立化を深めていたなかでのわが国の対応の姿を知るうえで欠くことができない資料でもある。（88・10刊）

⑨ 撫順炭坑内堀
採炭事業ニ於ケル 中国人労働者ノ労働条件

ISBN 978-4-8447-5342-1

A5判・約150頁・折込多数

本体価18,000円

本書は、昭和15(1940)年からその翌年にかけて行なわれた、「撫順炭坑内堀採炭事業ニ於ケル中国人労働者ニ関スル調査」の労働条件篇である。当時の東北地区の工産業部門とりわけ炭坑部門では、中国人労働力が極度に不足して、重大な影響をすべての生産部門に及ぼすおそれさえあった。撫順炭坑も例外ではなかった。この調査報告に昭和16(1941)年および18(1943)年に満鉄本社調査部(局)が行なった『満鉄中国人従業員生計費調査』を重ね合わせることによって、日本帝国主義支配下とりわけ戦争末期の東北地区における中国人労働者の労働生活の実態を知ることができるであろう。(88・10 刊)

特秘・軍秘

⑩ 満鉄在籍社員統計

ISBN 978-4-8447-5343-8

A5判・約280頁・折込多数

本体価20,000円

満鉄は明治40年営業開始以来、毎年度末現在の在籍社員統計を、業務用社内資料として作成しているが、昭和20年8月の日本の敗戦により、昭和20年度はもとより、21年1月末現在の部個所別総括統計以外は、19年度末現在の統計資料も整理できなかった。そのため、満鉄在籍社員の部個所別、資格別の詳細な公式統計は、この19年9月末現在統計が最後の統計である。満鉄会社の戦後処理に当っての日本政府との折衝で、基礎資料とされた唯一の人事関係統計である。わが国の満洲支配をめぐる国内外の情勢の変転の中で、満鉄社業の消長が人事行政面に反映されている公式資料である。わが国政府の代行機能をもっていた満鉄の満洲経営組織を人的配置構造の側面から知ることができる重要資料でもある。(89・3 刊)

⑪ 満鉄中国人
労働者の 生計費調査報告

ISBN 978-4-8447-5344-5

A5判・250頁

本体価17,000円

支那事変勃発2年にして、悪性インフレーションが引き起された満洲では労働力の不足と質的低下が進行し、社業が著しい支障をきたし、社会不安も高まりつつあった。かかる事情をふまえ、満鉄調査部は統一的調査課題として「日満支ブロック・インフレーション調査」をとりあげ、その調査結果にもとづき、さらにそれを深めるため「日満支戦時経済の分析」を統一的課題とした。ここに収録した資料はいずれもその調査の一環として、大連本部の調査部が現場の中国人労働者の賃金水準と生活内容の実体について行った昭和15(1940)年度の調査報告である。日本の戦時経済体制末期における、わが国の植民地的支配下にあった中国人労働者の経済生活の実態を恣意的粉飾を加えず、比較的忠実に伝えている史料として貴重である。(89・3 刊)

⑫ 課級以上組織機構変遷並に人事異動一覧表
附 歴代重役及び監理官一覧表・各次「職制改正」の要旨

ISBN 978-4-8447-5350-6

A4判・280頁

本体価50,000円

満鉄は存続した約40年間に、前後21回「職制改正」とよばれた組織機構の根本的改正を行った。そしてその中間期にも課級以上の組織の手直しの改正を幾度も行っている。本書の21の組織表は、それらの根本的改正に中間期の手直しの改正を改正の年月日とともに記した会社の組織機構の変遷推移の全貌の記録である。同時に課級以上の個所及び部局の課長及び課長待遇以上の会社幹部の離就任を、その離就任の年月日とともに記録している。(92・9 刊)

これは、植民地会社満鉄が存続した40年間の組織の変遷と幹部人事の異動の全貌を併せて示す唯一の公式記録であり、わが国の対満支配の「盛衰」変転の記録でもある。

(92・9 刊)

⑬ 満洲鉄道建設誌 附 秘 列車運行表

ISBN 978-4-8447-5367-4
A5判・780頁

本体価30,000円

満鉄が1907(明治40)年4月1日営業を開始した当時、全満の鉄道は総計約3,400軒であったが、英・露・支・日系それぞれの経営する鉄道が広軌、狭軌、軽便と種々雑多な軌幅を採用し、全く連結性の不可能な状態であった。ところが1945(昭和20)年日本敗戦時には全満鉄道路線総軒数約13,000軒、全鉄道は満鉄の統一的経営下、標準軌幅4呎8吋半に改修統一されていた。

本書により、右の鉄道網発展は列強の国際的葛藤を通じて実現し、中国の自主的建設が中国民衆の国権回復思潮の高揚期に現われ、また全発展の70%余が「満洲国」期に集中したことなどが具体的に示されている。それは満洲での鉄道網発展の基本的性質、特徴を具体的に示すものである。

解題は現場事業にたずさわった1満鉄人が担当、当時の心情と姿勢を卒直に語る。(91・11刊)

⑭ 南満洲鉄道株式会社 中央試験所要覧 (昭和16年版)中央試験所一覽

ISBN 978-4-8447-5347-6
A5判・240頁

本体価15,000円

満鉄は社会科学部門調査機関のほか、中央試験所、農事試験場、獣疫試験所、地質調査所等数多くの自然科学部門の調査、研究組織を設置、経営していた。中央試験所はこの中の重点組織の一つであり、最後に満鉄直属組織として最も成果をあげ、また日本敗戦時、その業務・業績が比較的完全な形で新中国に引き渡された組織である。

本書によりその全貌を知ると共に、満洲の経済・産業の開発に果たした役割の実態を読みとることができる。解題は当時の研究所の無機化学研究室の責任者が担当、それはまた満洲における科学技術と化学工業の発展小史でもある。(92・10刊)

(昭和3年)

⑮ 秘 満鉄関係條約集 附・索引 全2巻

ISBN 978-4-8447-6365-9
A5判・総1,430頁

本体価55,000円

本條約集は1925(大正14)年10月刊の『南満洲鉄道株式会社関係條約集』の改訂、増補版である。当時の満洲を取り巻く国際関係、日本国内での満鉄の地位と性質の全貌を法的側面でも最も詳細、赤裸々に示す。

収録文書類の主要なものの政治・外交的背景や意義は解題によって解説。満鉄設立前期から「事変」直前期までの満洲における鉄道を中心とする列強の「権益」をめぐる政治・外交闘争の概要を知ることできる。(93・4刊)

満鉄調査部 編／解題 井村哲郎

⑯ 満鉄調査部報 (昭和15年5月～18年4月) 全4巻

ISBN 978-4-8447-3490-1
A5判・総1,600頁

本体価88,000円

昭和14年4月の改組により拡充された満鉄調査部の中心部門だった総合課が拡充調査部の任務を各地調査担当部局に伝達・浸透させ、調査の意思統一を図らせるために発行。部内の内情を詳細に読みとれる貴重資料。(00・8刊)

南満洲鉄道株式会社

営業報告書・株主姓名表 (昭和18年版) 全4巻

復刻原本=明治39年度後半期の第1回から昭和19年
第44回までの各年次営業報告書を全て含む。附録の株主名簿は昭和18年版
(528頁)。

ISBN 978-4-8447-5359-9

B5判・総約5,000頁

本体価130,000円

本書は、「満洲創設」から昭和20年解散に至る全過程の、各年度(明治期は半年毎、大正期以後は年毎)の営業報告書の復刻版である。特に、「満洲事変」から解散に至る過程は資料的に欠乏しているが故に、本書はこの点を若干なりとも補っているものと思う。各報告書には、鉄道・船舶・港湾・鉱山・工業・電気・ガス・旅館・建物等の満鉄の全営業事項の詳細な統計、貸借対照表・損益計算書、その他附属諸表として鉄道収入月別表、列車運転成績等の統計諸表を含む。また附録の「株主名簿」(昭和18年版)は、満鉄末期の全株主名と持株数を収録している。(77・5 刊)

【区切】 満鉄調査部(昭和12年刊)／解題 原 朗

【復刻版】

満洲5箇年計画立案書類 全14巻・付図1

ISBN 978-4-8447-5361-2

A5判・総約6,900頁

本体価120,000円

満鉄調査部の膨大な調査書類は、今日なおその全容を知ることさえ困難である。その中で、「満洲永年計画資料」を含む『満洲5箇年計画立案書類』全14巻の完全復刻である。(80・3 刊)

収録内容

第1編第1巻	満洲5箇年計画概要
第1編第2巻	満洲永年計画資料
第2編第1巻	鉱工業部門概要
第2編第2巻	鉄鋼関係資料
第2編第3巻	液体燃料関係資料
第2編第4巻	石炭関係資料
第2編第5巻	軽金属関係資料

第2編第6巻	鉛鋅関係資料
第2編第7巻	自動車工業関係資料
第2編第8巻	雑鉱工業関係資料
第3編第1巻	農畜産部門関係資料
第4編第1巻	資金部門関係資料
第5編第1巻	労働部門関係資料
第6編第1巻	交通部門関係資料

(財)満鉄会結成40周年記念出版／満鉄会 編

南満洲鉄道株式会社第4次10年史

ISBN 978-4-8447-5358-2

A5判・626頁

本体価17,000円

あった。しかし、この期間こそ特急あじあ号の蕩進・全満洲における鉄道等の一貫経営及び新線建設・北鮮鉄道の経営、撫順炭礦を軸とする製油・製鉄・石炭液化、国策的諸調査等会社業務の飛躍的膨張発展を遂げながら、敗戦により一切の従来蓄積を失うまさに明暗を分けた激動の時代であった。本書は、会社存続中の刊行とは異なるものの、その内容は現段階で可能な限りの資料を蒐集駆使して会社の全部門を余すところなく記述したものであり、本書によって初めて明らかにされた部分も多い。さらに終戦前後における会社の現地対応はもとより、昭和32年4月の清算結了に至るまでの全過程に言及しており、その意味で本書は会社の最後史にも相当する。(86・10 刊)

南満洲鉄道株式会社(満鉄)は、日露戦争後のわが国の満蒙政策遂行の唯一の代行機関として設立され、その後の満蒙をめぐる複雑な国際環境のなかで終戦に至るまでの40年間、つねに大陸開発の牽引車の役割を果たした。その具体的活動については、昭和11年度までは会社が10年ごとに発行した社史により明らかであるが、12年度以降については終戦時の混乱・資料の現地焼却・米ソ両国による書類持出し等により社史が欠落したままで

満鉄社員会 発行

縮刷版

協

昭和4年5月～16年12月(半月刊誌時代)

全25巻・総300冊

B5ワイド判

揃本体価654,000円

和

『協和』は満鉄社員会の発行雑誌であった。会社の記録・資料と異なり、そこに勤務した人間の“生の声”を伝える唯一の資料である。国策遂行を任務とした「満鉄」ではあったが、しかし満鉄で働く現業日本人の多くは五族協和の理念の下、現地人満鉄社員と共に、明るく勤務に従事していた。やがて来るべき悲劇を予感させる緊張した国際環境下において或る意味でハツラツたる活気に満ちていた満鉄の当時を本誌は巾広く描く。ありのままの職場通信、全満各地の末端現場での社員の苦勞、婦人社員の生活記事、結婚紹介、風俗習慣、言語など、「満洲」民族の詳細な紹介、読書欄での新刊圖書の紹介…など仕事・生活・教養を一体化し、しかも極めて高度な編集技術で刊行。その他、政治経済上の記事…物価・人事・経済・国際関係(特にソビエト事情)等、近現代史研究のために不可欠の情報を今日に伝える第一級資料である。

('87刊)

残僅少

刊 行 内 容

配本	原本巻号	原本発行年月(昭和)	冊数	分冊本体価	ISBN
1	第1号～第40号	4. 5～5. 12	3	85,000円	978-4-8447-6156-3
2	第41号～第88号	6. 1～7. 12	4	104,000円	978-4-8447-6157-0
3	第89号～第136号	8. 1～9. 12	4	104,000円	978-4-8447-6158-7
4	第137号～第183号	10. 1～11. 12	4	104,000円	978-4-8447-6159-4
5	第184号～第231号	12. 1～13. 12	4	104,000円	978-4-8447-6160-0
6	第232号～第279号	14. 1～15. 12	4	104,000円	978-4-8447-6161-7
7	第280号～第303号	16. 1～16. 12	2	49,000円	978-4-8447-6162-4

※但し、第257号・第285号・第303号は原本未発見(当時)のため、収録なし。

龍溪書舎編集部 編

『協

総目次

ISBN 978-4-8447-0439-3

B5判・100頁

本体価1,500円

和』

満鉄社員会発行、雑誌『協和』全300号の各目次・頁を収録。

('83・9刊)

残僅少

復刻版

統 計 年 報

(明治40年～昭和14年) 全30巻・総39冊

A5判・総約25,000頁

揃本体価975,000円

満鉄の「統計年報」は、満鉄の経営状態と全事業について、創業以来戦時下に至る約30年間にわたり、膨大な統計類を収録したものである。

満鉄の活動と発展の全体像的記録としては、10年毎に編集された所謂「10年史」があるが、これは植民地支配機関としての満鉄の正史である。とすれば、本書は企業体満鉄の経済活動の歴史を統計数字により綴った「正史」ということができる。

(92・3 刊)

刊 行 内 容

配本	原本発行年	冊数	分冊本体価	ISBN
1	明治40年～明治44年	5	125,000円	978-4-8447-8121-9
2	大正元年～大正7年	7	175,000円	978-4-8447-8122-6
3	大正8年～大正14年	7	175,000円	978-4-8447-8123-3
4	昭和元年～昭和6年	10	250,000円	978-4-8447-8124-0
5	昭和7年～昭和14年	10	250,000円	978-4-8447-8125-7

※但し、昭和13年は原本未発見（当時）のため、収録なし。

2. 満洲

満州移民史研究会(代表 浅田喬二)編

①浅田喬二②君島和彦③小林英夫④高橋康隆⑤田中恒次郎⑥柚木駿一⑦依田憲家 (50音順)

日本帝国主義下の満州移民

ISBN 978-4-8447-5371-1

A5判・720頁

本体価6,500円

敗戦前の日本帝国主義は台湾、朝鮮、「満洲」(中国東北地区)、中国、東南アジア等の植民地の領有なしには存在しえなかった。

本書は日本帝国主義による植民地支配の全容を解明するための一助として、満州移民の全体像構築を意図したものである。

(76・11 初版)

(84・7 2版)

満洲国國務院総務庁情報処 編

解題 浅田喬二、小林英夫

復刻版

省 政 彙 覧 全9巻

ISBN 978-4-8447-5370-4

A5判・総3,760頁

本体価120,000円

『省政彙覧』は1935～39年にかけて、吉林省、龍江省、黒河省、三江省、滨江省、間島省、安東省、奉天省、錦洲省の9省に亘り、各省省政の概要を統一的に、具体的に記述(日本文)した、総3,700頁余の膨大な資料である。

日本帝国主義の「満洲」各省に対する軍事的、政治的、経済的、社会的、イデオロギー的支配の実態を、具体的にしかも包括的につかめる貴重な資料である。

(87・5 刊)

解題 浅田喬二

復刻版

興 亜 院 調 査 月 報 大東亜省 全36巻

興 亜 院『調査月報』第1巻～27巻

原本34冊(昭和15年1月～17年10月)

大東亜省『調査月報』第28巻～36巻

原本16冊(昭和18年1月～19年4月)

A5判・総17,000頁・折込多数

揃本体価612,000円

興亜院の『調査月報』には、中国占領地の重要国防資源、農工業品の生産・需給関係、農工業の労働力需給状況、農工業品の取引機構、鉄道輸送状況、財政・金融の現況、通貨・物価の動向、地方教育の現況、秘密結社・宗教活動状況、辺区(中国共産党支配地区)の政治・経済状況、思想団体の活動現況、などの調査結果が満載され、中国占領地の日本による社会的・経済的・文化的・イデオロギー的支配状況が浮き彫りにされ、日本帝国主義による中国支配のもつ諸矛盾の実相が明らかになる。

大東亜省の『調査月報』は、「調査」と「資料」を中心にして構成されたもので、主に、中国占領地における農工業品の生産・需給状況、農工業品の流通機構、「満洲移民」の入植状況、炭鉱労働者の需給状況、教育・宗教活動の状況、辺区での

中国共産党の工作状況、などの調査結果が満載されている。

この二つの『調査月報』は、日本帝国主義による中国支配の全容(全体像)を体系的に明らかにするための、極めて貴重な第1次資料である。

(88 刊)

刊行内容

配本	原本巻号	原本発行年月(昭和)	冊数	分冊本体価	ISBN
1	第1巻～第9巻	15. 1～15. 11	9	153,000円	978-4-8447-6116-7
2	第10巻～第18巻	15. 12～16. 8	9	153,000円	978-4-8447-6117-4
3	第19巻～第27巻	16. 9～17. 8	9	153,000円	978-4-8447-6118-1
4	第28巻～第36巻	17. 9～19. 4	9	153,000円	978-4-8447-6119-8

満洲国実業部臨時産業調査局 編
解題 小林英夫、風間秀人

復刻版

農村実態調査報告書 全16巻

ISBN 978-4-8447-3311-9

A5/B5判・総約4,100頁・折込、写真多数 本体価120,000円

建国後間もない「満洲国」実業部臨時産業調査局は、1933年から1936年にかけて「満洲」各地の37部落を対象とし、全農家1,651戸を把握する大規模な農村実態調査を実施した。本書はこの調査の総括報告書に位置付けられるもので、そこには、当時の「満洲」農村社会の状況が生々しく描かれている。しかも、この産業調査は、以前に例を見ない悉皆調査という形式を取り、それまでにない大規模、かつ精緻なものであったことから、その後、「満洲」や中国占領地でおこなわれた農村調査に多大な影響を与えた。
(89・7 刊)

収録内容

第1巻 農家概況編	第7巻 農家経営統編	第13巻 土地関係並に慣行編 (補遺)
第2巻 小作関係並に慣行編	第8巻 土地関係並に慣行編	第14巻 北満・南満農村実態調査報告書 —租税公課編
第3巻 農業経営論	第9巻 農村社会生活編	第15巻 農家の負債並に貸借関係編 (南満の部)
第4巻 販売並に購入事情編	第10巻 農産物販売事情編	第16巻 耕種概要編 (北満農具之部)
第5巻 雇傭関係並に慣行編	第11巻 農家経済収支	
第6巻 農家の負債並に貸借関係編	第12巻 主要農産生産費	

3. 中国

小倉芳彦 著

吾レ龍門ニ在リ矣
—東洋史学・中国・私—ISBN 978-4-8447-5398-8
B6判・241頁

本体価1,000円

60年代後半の〈大学戦争〉を、自己の〈研究対象〉と自己とを鋭く対峙させつつ生きた著者による、諷刺とユーモアに満ちみちた現代東洋史学批判。
(74・5 刊)

残僅少

高田 淳 著

章炳麟・章士釗・魯迅
—辛亥の死と生とISBN 978-4-8447-5386-5
A5判・350頁

本体価2,600円

辛亥へ、そして辛亥から——革命と反革命のせめぎあうなかで各々の生を貫徹させた革命家群像を、章炳麟を軸として描いた本書は、〈辛亥革命〉の精神史でもある。
(74・9 刊)日加田誠博士
古稀記念

中国文学論集

ISBN 978-4-8447-5388-9
A5判・560頁

本体価5,000円

『楚辞』・『詩経』などの古典研究を通じ、深められた思案を礎にして、科学的緻密さと文学的自由闊達さを兼ね備えた独自の「日加田中国学」を構築した、博士の古稀記念論集。
(74・10 刊)

田中武夫 著

橘樸と佐藤大 四 郎
—合作社事件、佐藤大 四 郎の生涯—ISBN 978-4-8447-5384-1
四六判・380頁

本体価1,900円

橘樸の思想を継承し、実践面において発展させた佐藤大 四 郎は、「北満」の地に農村共同組合（合作社）運動を展開し、権力の弾圧により昭和18年獄死した。本書は昭和史の欠落を補う書である。
(75・3 刊)

矢吹 晋 訳／解題 小島麗逸

中国社会主义経済の理論
—政治経済学基礎知識—ISBN 978-4-8447-5438-1
四六判・340頁

本体価1,500円

中国初めての“経済学”教科書。プロ文革、批林批孔運動を経て、中国の大衆によって作り出された経済学の理論。小島麗逸氏の解題「労農兵が作り出す“経済学”」を付す。
(75・4 初版)
(75・7 2版)

解説 小山内 宏／『軍事基本知識』翻訳グループ 訳

中国軍事教 本(上・下)
—人民戦争の軍事学— 全2巻ISBN 978-4-8447-0000-5
B6判・総521頁

本体価3,000円

「人民の軍隊がなければ、人民のすべてはない」という中国で、初めて明らかにされた、人民の軍事基本知識。批林批孔の中から、兵士大衆の手によって作られた軍事入門書。
(76・1 刊)

残僅少

香坂順一 著

北 京 大 学 2 年

ISBN 978-4-8447-5433-6

四六判・352頁

本体価1,900円

中国政府の学術部門の招きにより2年間の北京
大学留学を経て、大学改革の現状、中国語の文字
改革、水滸伝批判の問題など、生きた社会主義の
現実に触れた斬新なエッセイ集。(76・3刊)

残僅少

編集・解説 高崎隆治

編集復刻版

15年戦争極秘資料集 (第1集)

ISBN 978-4-8447-5412-1

B5判・200頁

本体価2,500円

—内容—

資料1 大東亜戦争ニ伴フ我カ人の国力ノ検討
(昭和17年1月 陸軍省兵備課)

資料2 海外地邦人ノ言動ヨリ観タル国民教育資
料(案)(昭和15年5月 大本営陸軍部研究
班)(76・5刊)

戴 国輝 著

境 界 人 の 独 白 —アジアの中から—

ISBN 978-4-8447-5434-3

四六判・358頁

本体価1,900円

日本人との対話を通じて、日本とアジアのある
べき親善関係を構築すべく自ら「架橋」の一石を
になおうとしている著者が、日中関係の新段階に
あたって放つ最新エッセイ集。(76・12刊)

残僅少

復刻版

銀 雀 山 漢 墓 竹 簡 孫子兵法・孫臏兵法 全2巻

ISBN 978-4-8447-5399-5

B5判・728頁

本体価12,000円

内容 = 古佚書図版摹 本・古佚書釈文注釈

(76・9刊)

片山智行 訳

魯 迅 雜 文 集 I

ISBN 978-4-8447-5439-8

四六判・272頁

本体価1,500円

文革後の下放青年に向けた「青年自学叢書」の
中で、初期に出版された「魯迅雜文選」上・下(复
旦大学・上海師範大学中文系選編)の全訳である。
全3冊として翻訳刊行のI。(76・12刊)

片山智行 訳

魯 迅 雜 文 集 II

ISBN 978-4-8447-5440-4

四六判・272頁

本体価1,500円

「雜感という文体は、魯迅によって文芸性のある
論文の代名詞に変わろうとしている。もちろん、
これは創作にとって代わることはできないが、し
かしその特徴は、いっそう直接的にいっそう迅速
に、社会の日常の事件に反応することである。」
——瞿秋白(76・3刊)

北 恭子 著

女の生き方 —中国にくらして—

ISBN 978-4-8447-5435-0
四六判・313頁

本体価1,800円

“妻”であり“母の身”である著者が72年中国の雑誌社に単身赴任し、4年間の日常生活の中から結婚・育児・労働等女の生き方を考える上でのエッセイ集。

(77・3 刊)

[残僅少]

渡辺信夫、川村嘉夫、森 久男 共編訳

中国農業と大寨

ISBN 978-4-8447-5437-4
四六判・325頁

本体価1,500円

中国社会主义の基底を構成する農業、その発展の歩みを科学的にあとづけた、蘇星著『我国農業的社会主义進路』（人民出版社）の全訳。中国農業研究の基礎的文獻。

(77・7 刊)

[残僅少]

任 明 編(1952年版)

[復刻版]

北方土語辞典 (初編)

ISBN 978-4-8447-5420-6
B6変形判

本体価3,000円

中国語・中国文学の学習ならびに中国文の翻訳に従事する学徒の必携小字典。「人民文学」等を読む際には「不可欠」の字典。

(77・7 初版)

96・5 2版

金 思愷 著／矢吹 晋 訳

思想の積木 —毛沢東思想の内容と形式—

ISBN 978-4-8447-5381-0
四六判・382頁

本体価2,200円

毛沢東思想とは何か。いわく「中国の伝統思想である……、スターリン主義である……、プラダマティズムである……、マルクス主義の歪曲である」などの誤りを逐一粉砕する。

(77・9 刊)

大空不二男 著

中国の後宮

ISBN 978-4-8447-5382-7
四六判・352頁

本体価1,500円

著者は中国語に堪能であり、商品学に深い造詣があるばかりでなく、物識りで、歴史好きで、物好きで、旅好きで、酒好きで、しかも女好きだという。今は亡き著者の遺作である。

(77・10 刊)

[残僅少]

明清文学言語研究会会報改題(編集代表 香坂順一)

中国語研究

A5判

第17号 ISBN 978-4-8447-5427-5

本体価1,200円

第18号 ISBN 978-4-8447-5428-2

本体価 " 円

第19号 ISBN 978-4-8447-5429-9

本体価 " 円

第20号 ISBN 978-4-8447-5430-5

本体価 " 円

(78・7 刊～81・12 刊)

羽根田市治 著

上海の縣城志 附・上海略年表

ISBN 978-4-8447-5374-2

四六判・350頁

本体価2,100円

日本と最も密接なつながりをもつ中国の都市・上海。その上海の歴史と不可分であり、古い上海を象徴する上海縣城をテーマに、考証・解説・隨筆・紀行の方法を駆使し、在滬（在上海）5年の文献収集を基礎に、著者のライフワークがここに完成。
(78・8 刊)

小島麗逸 編

中国の都市化と農村建設

ISBN 978-4-8447-5377-3

A5判・400頁

本体価3,500円

“土”をわすれた都市の肥大化は、社会主義中国でも不可避か。解放後の都市・農村建設の歩みをたどり、“都市化なき社会主義”の行方を問う。
(78・11 刊)

高木秀樹 著

黄河のほとり パオ包 トゥ頭

ISBN 978-4-8447-5378-0

B6判・160頁

本体価850円

交易都市から一大製鉄都市に変貌した包頭を描く。
(79・3 刊)

上野恵司 編

魯迅小説語彙索引

ISBN 978-4-8447-5422-0

A5判・570頁

本体価9,000円

魯迅は中国語の可能性を模索しながら文章を書いた。魯迅の中国語がどのようなものであったかを見ておくことは、今日の中国語を考えるうえで、欠かすことができない。

本索引には魯迅の3つの小説集《吶喊》《彷徨》《故事新編》の中から、現代中国語の語彙や語法の問題を歴史的にさかのぼって考える上で大切であると思われる語彙を中心に選んである。
(79・4 刊)

残僅少

花野吉平 著

歴史の証言 —満州に生きて—

ISBN 978-4-8447-5383-4

四六判・296頁

本体価1,900円

本書は、敗戦35回忌にあたり、戦後、企業人（大和ハウス工業取締役）として活躍した著者が、若き日、中国大陸を人生の舞台とし、最悪未曾有の日中関係に肌でふれ、生々しい自己体験を通して自己の偽らざる真情を赤裸々に語ったものである。

この書は、単に青春懐古録ではなく、むしろ今日の世情・政治に対する警世の書である。
(79・7 刊)

残僅少

台湾憲兵隊 編

台湾憲兵隊史

ISBN 978-4-8447-5387-2

A5判・489頁

本体価12,000円

凡例抄

①. 本史はまず台湾における憲兵隊の制度変遷を述べ主として先輩憲兵個々の事跡を記述し、同時に台湾占領に関する軍事の梗概をも併記せり。

②. 本史は台湾憲兵隊の最も活躍したる領台当時及びその後明治35年頃までの先輩憲兵個々の事跡を主として編纂せり。

③. 本史の資料は改隸以来憲兵として活動し、今なお生存せる諸氏の実験談、台湾憲兵隊歴史史、台湾陸軍部備付の史料、台湾総督府各州庁保存の資料その他各種の史実を基本として記述せり。
(79・11 初版)
(07・10 2版)

復刻版

語文學習

(1951年～1960年) 全14巻

ISBN 978-4-8447-5476-3

A5判・総約5,400頁

本体価72,000円

- ◇1951年10月(第1期)～1953年4月(第19期)
—開明書院
◇1953年5月(第20期)～1954年12月(第39期)
—中国青年出版社
◇1955年1月(第40期)～1960年6月(第105期)
—人民教育出版社

('79刊)

残僅少

葉開沅、張世堯 共著

復刻版

ゲキ 藝劇高腔考

ISBN 978-4-8447-5421-3

A5判・692頁

本体価16,000円

婺劇は元雜劇より古い宋の演劇、古い南戲。在来の研究は文献主体で民間の現実の舞台芸術を無視してきた。本書は浙江東部は金華衢州地区の婺劇を發掘し古い南戲の面影を追究したもの。中国演劇史の研究、戲曲史研究の方法論を修正する上での不可欠の文献。

('81・7刊)

残僅少

宮田一郎 著

海上花列伝呉語彙索引

ISBN 978-4-8447-5426-8

A5判・334頁

本体価4,500円

呉方言を研究する資料として呉方言が記録された文献のうち、よいものは海上花列伝である。本索引は古い白語彙彙の研究にも情熱を傾ける編者が精細に編んだ呉方言研究のこよなき工具書。

('81・8刊)

編集 山本秀夫

甦る橘樸

ISBN 978-4-8447-5375-9

四六判・360頁

本体価2,500円

生涯を日中間題にささげた一代の奇才、中国を愛し中国に生きた橘樸の生誕100周年を記念し、橘の豊かな人間像を最新の資料をまじえて、彼とともに生きた人々によって描きだす。

('81・8刊)

残僅少

森脇皓州 著

周易釋詁

全2巻

ISBN 978-4-8447-5379-7

A5判・1,750頁

本体価28,000円

「周易釋詁」は、3,000枚におよぶ大著。筮法、生卦法、易経上下、繫辭伝上下、説卦法、序卦伝、雜卦伝等、およそ周易に関する原典を網羅し、その全般に亘り、極めて緻密、周到、微に入り、細に至り、1字1句、余すところなく、徹底的に解説をほしきままにしている。関連する事項については、各典籍の必要箇所を相互に引用し、考究を進め、余すところがない。本書はおよそ易学の研究者にとって、その至難なる解義を、ひたすら平明なる理解に導き、易学精神の把握にいたらしめる堪能なる力作である。

('81・9刊)

葉祥苓 著

復刻版

蘇州方言地図集

ISBN 978-4-8447-5423-7

B5判・150頁

本体価3,800円

蘇州市及び呉県管轄下41人民公社2直属県を綿密周到に調査した成果。51枚の精密な方言地図から成る。趙元任「現代呉語的研究」以来久しく絶えていた研究書。湖南、湖北、雲南の方言調査に匹敵する必備の文献。漢語史、古典白話小説戲曲には不可欠の事典。

('81・10刊)

依田憲家 著

再増補 日中兩國近代化の比較研究序説

ISBN 978-4-8447-8364-0

A5判・392頁

本体価6,000円

従来わが国においては、社会発展の問題を論ずる場合、西欧諸国との比較研究が重視されて来た。しかし西欧もまた「特殊」な面を持つことが明らかとなり、これ迄の西欧諸国での社会発展の過程を歴史の典型とすることは不充分と認識されるに至っている。

この様な観点から、「近代化」に直面したアジア諸国、特に新中国の学術研究の成果に接して、相互の共通点や相違点を比較しつつ、近代日本の本質を明らかにしようと試みる。

('86・9 初版)
'93・3 4版

残僅少

熊 復主 編

復刻版

世界政党辞典

ISBN 978-4-8447-5385-8

A5判・680頁

本体価8,000円

政党を知ることは近代政治・社会を知る鏡である。本書は現代中国が雑誌「紅旗」編集長、熊復主を中心に200人以上の専門家の総力を結集し、世界各国の政党および政党関係の人物・事項を編集整理したもので、類書がない。近世政党を研究する上での重要資料。

('86・12 刊)

ミー・ルー・チン

宓 汝成 著 / 依田憲家 訳

帝国主義と中国の鉄道

ISBN 978-4-8447-5376-6

A5判・640頁

本体価18,000円

1840年のアヘン戦争から1949年の中華人民共和国の成立に至るまで、中国は半植民地・半封建の状態に陥れられていた。中国の植民地化は、政治・経済の支配、農・鉱資源の収奪など基本的には鉄道の支配を通じて行われた。近代日中関係も、満鉄をはじめとする中国の鉄道権益をめぐって展開した。

同時に、中国の鉄道は、国内市場の形成、民族的結合の促進などの面で新中国成立の前提となったことも事実であり、中国最初の本格的な労働運動も、この部門から起っている。本書はこの分野における中国人研究者による本格的な研究書である。

('87・10 刊)

編集・解題 依田憲家

蘆溝橋事件50周年記念

編集復刻版

日中戦争占領地区支配資料

ISBN 978-4-8447-6322-2

A5判・734頁

本体価25,000円

日中双方より日本の中国占領地区支配の実態を明かす重要資料を収録。

('87・10 初版)
'90・2 2版

収録内容

陳真・姚洛・逢先編
中国近代工業史資料 (抄訳)
満鉄調査部編
北支那産業開発計画資料
北支那開発株式会社編
北支那開発株式会社及関係会社概要
中支那振興株式会社編
中支那振興株式会社事業内容概説

中国通信社調査部編
戦後の上海各業状況調査
中支経済研究所編
中支那経済復興建設概説
長江産業貿易開発協会編
支那民族資本と租界の現状並に中支那の重要性に就而
興亜院編
第77回帝国議会興亜院関係説明資料
■記念論文 日中戦争の歴史的背景 (依田憲家)

依田憲家 著

日本帝国主義と中国

ISBN 978-4-8447-8303-9

A5判・350頁

本体価4,500円

20世紀の始まりは、同時に世界資本主義の帝国主義への移行の時代でもあった。この頃世界帝国主義陣営に参加した日本は、第1次大戦を通じて本格的な帝国主義体制を確立し、第2次大戦に突入して行った。この間、日本帝国主義の侵略の主な対象となったのは朝鮮とともに中国であり、「日韓合併」後は中国をその主な侵略の対象とし成長していった。

本書は、(1) 日本帝国主義は成立の各段階において中国をどの様に位置づけ、どの様な政策をとったか、(2) 侵略の各段階において、勢力範囲、植民地、占領地区などをどの様に支配しようとし、また支配したか、の問題に焦点をあて、その実態を実証的史料で明らかにする。

(’88・11 初版)
(’89・11 2版)

小杉修二 著

増補 現代中国の国家目的と経済建設
—超大国志向・低開発経済・社会主義—

ISBN 978-4-8447-8304-6

A5判・430頁

本体価5,000円

ズムであるとする「エコロジカル・コミュニズム」

本書は何よりも論争の書である。著者は、中国の国家目的としての超大国志向を核とし、低開発経済、社会主義という三つのキーワードで現代の中国を根本的にとら直すことを提唱している。

その例証は、巨額の資金を割振った核ミサイルの開発や、重複建設の原因となった人民戦争の分散拠点づくりの分析にも示されている。

このような分析の延長上に著者は、現代資本主義に對置されるべきものが、それへの追いつき志向に規定された現代社会主義ではなく、コミュニズムの視界を提示する。

(’88・12 初版)
(’94・12 2版)

日中戦争史研究会(代表 馬場 毅) 編・訳

日中戦争史資料
—八路军・新四軍—

ISBN 978-4-8447-8337-4

A5判・524頁

本体価12,000円

日中戦争当時、「人民軍隊」といわれた中国共産党指導下の八路军・新四軍は、その規律の厳格さと強い戦闘力で日本軍を悩ました。国家政策遂行の手段に過ぎない日本軍と異なり、中国自身の革命を目指した彼等は政治工作を重視し、人民大衆と呼びかけた遊撃戦を展開し、やがて勝利する。本書はこの過程を著作、回想録等を選び当時発行の第1次資料のみ4点を選出し翻訳。(’91・8 刊)

収録内容

- 第1編 抗日戦争時期の八路军と新四軍
八路军総政治部宣伝部編集
(人民出版社、1953年)
- 第2編 戦時政治工作
静琴編(時代資料保存社、1938年)

- 第3編 抗日遊撃戦争
朱德著(新華日報館、1938年)
- 第4編 八路军百团大战特輯
第一八集团軍(八路军)政治部編集
(八路军軍政雜誌社、1941年)

依田憲家教授還暦記念論文集編集委員会 編

日中両国の伝統と近代化

ISBN 978-4-8447-8348-0

A5判・504頁

本体価12,000円

早稲田大学社会科学研究所依田研究室に關わって日中比較論をテーマとする中国若手研究者の力作論文集。(’92・4 刊)

齋藤秋男 著／齋藤淑子 編

“大正”文学少年懐古

ISBN 978-4-8447-5466-4

A5判・210頁

本体価2,000円

近現代中国教育史研究の先駆者で、中国児童文学や革命文学の紹介に尽力した著者の遺作集。珠玉の短編を取める。(04・10 刊)

坂井田夕起子 著

誰も知らない西遊記

—玄奘三蔵の遺骨をめぐる東アジア戦後史—

ISBN 978-4-8447-0207-8

四六判・280頁

本体価3,000円

『西遊記』といえば“孫悟空”と思ひ浮かべることが多いが、本書はその本来の主人公、玄奘三蔵法師の没後の旅を描いたものである。

インドから持ち帰った多数の経典を翻訳するという偉業を成し遂げた玄奘は、60代で生涯を終える。その遺骨が日中戦争の最中、南京で発見されるところから話が始まる。さらに遺骨は日本へ渡り、台湾、中国へと旅することになる。仏教界においては聖遺物とされる玄奘の遺骨が、戦後から現在にかけて与える影響とはいかなるものか。その真髓に迫る。(13・12 刊)